

ニューズレター

第11号

2020年7月1日発行



(公財)日本テニス協会  
テニスミュージアム委員会

〒160-0013  
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2  
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 7階  
Tel.03-6812-9271

## ミュージアムカフェの成功と JTAテニスミュージアム常設の確信

テニスミュージアム委員長  
吉井 栄



ルコトとのコラボで実現したカフェスペース(上)と入口看板(下)



ジャパンオープン会場内に最初に手作りのミュージアムを披露したのは1988年のこと。あれから31年、試行錯誤を重ねた末、2019年の楽天ジャパンオープンの会場に『ミュージアムカフェ』を設

けました。有明コロシアムの2階に、仮設とはいえ立派な展示スペースと美しいカフェを作り、日本で初めて誕生したフランス菓子専門店の『ルコト』さんとのコラボレーションで、おいしい飲み物や軽食の提供と共に、テニスミュージアム委員会所蔵品の一部を公開することができました。

楽天ジャパンオープン大会期間中は、10月に入っても続いていた記録的な暑さも手伝い、テニスファンの足は冷房の効いたミュージアムカフェに向かいました。「望月選手のウィンブルドンジュニア優勝トロフィーがありますよ!」というミュージアム委員の呼びかけも後押しとなり、自然と人の流れができました。スタッフの解説に耳を傾け、展示品の前で写真を撮り、基金にご協力いただいた方々から高い評価をいただいたと自負しております。

現場でスタッフとして働き、私たちの活動に理解を示してくださるゲストをご案内しながら、「これぞ日本テニス協会・テニスミュージアム常設へのスタートライン!」という気持ちを強め、長い間の思いが、多くの方々のサポートが、ようやく形となる時もそう遠いことではないと確信しました。

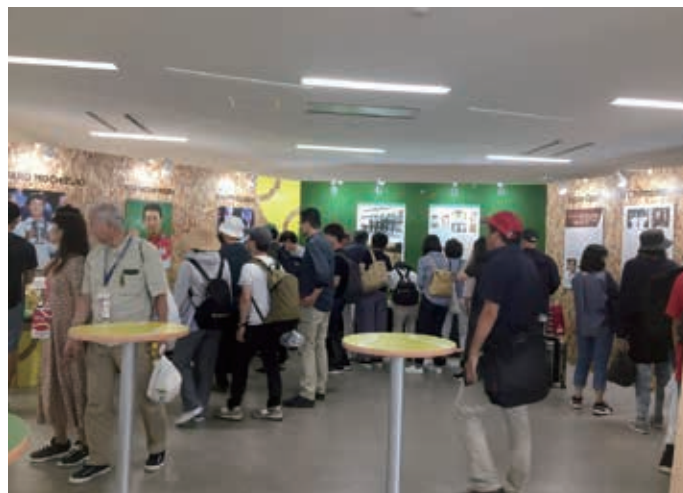
ここまでの道を振り返れば、「テニスミュージアムがないのは日本の文化の恥」という宮城黎子氏の言葉と、そこに託された熱い思いに奮起し、有志が集まりテニス資料館準備室を発足した当初のことが思い起こされます。ミュージアム基金を設立し、テニスの歴史を物語る貴重な品々が多くの方から寄贈され

ました。いただいた寄附金を管理し、寄贈品を整理・保管、ミュージアム設立に向けて準備を少しずつ整えながら現在に至っています。今は増加する所蔵品を整理しながら、何を保管し、どこに、どのように展示していくかの判断を迫られる段階にさしかかったところです。近い将来、常設ミュージアムを完成させた暁には、日本テニスの歴史を語る物や映像を展示し、現在の華やかなテニス界に至るまでの紆余曲折、その道のりで輝いた往年の選手たちと彼らの功績を蘇らせることができるでしょう。

日本という国に育かれたテニスの歴史を、より多くの方々に知っていただけるミュージアムを作り上げるのがわれわれテニスミュージアム委員会の使命です。テニスを愛する現代の若者たちに、このスポーツの歩みについて知ってもらい、彼らが日本テニス界の偉大な先輩たちへの感謝とリスペクトを胸に日々の練習に励むための環境を提供したいと思っています。30年以上の年月を重ねて、われわれが思い描いてきた理想の空間であるテニスミュージアム設立ももうすぐと確信するに至りました。委員会のメンバーと共に、これからも夢の実現のために日々頑張ってもらいますので、引き続き皆様のご理解とご協力、ご支援をお願い申し上げます。



人気だった望月選手の優勝カップの前で坂井利郎 JTA 副会長(中)、渡邊康二委員(右)と



多くのテニスファンを集めた展示スペース

# テニスミュージアム委員会所蔵史資料 (一部)

2020年7月1日現在 (敬称略)

| 種別         | 品名  | 年代             | 選手           | 記  | 寄贈者等                  |
|------------|---|----------------|--------------|--|-----------------------|
| ラケット       | DAVIS CUP (玉澤)                                  | 1920-30        | 熊谷一彌         | 1920年、アントワープ五輪で日本人初のメダリスト(男子単で銀、複で銀)となった熊谷一彌が愛用した日本製ラケット。当時のラケットはグリップ部分がむき出しで、滑り止めのため細い溝が施してあった                          | 盛田正明                  |
|            | ピアノ線ラケット (スラセンジャー)                              | 1920-30        | 朝吹磯子         | 日本庭球協会初代会長・朝吹常吉の妻で、日本で初めてのミセスプレーヤーとして活躍した朝吹磯子の使用ラケット。ストリングスに切れやすいガット(羊や牛の腸)ではなく、強靱なピアノ線を使った珍しいタイプ。女性が使用するのはかなりハード?       | 田代晴宣                  |
|            | LukeyRabbit (フタバヤ・三国同盟記念)                       | 1930           | 布井良助         | 1933年ウィンブルドン男子複で準優勝した布井良助の使用ラケット。日本・イタリア・ドイツの三国同盟を記念してイチョウ部のエンブレムにハーケンクロイツの刻印があったが、布井が自身で削り落としたという                       | 浦中 潮                  |
|            | 外国製ウッドラケットと5本用ラケットプレス                           | 1930           |              | 当時、国内では入手困難だった外国製ラケット多数。併せて、木製ラケットの変形を防ぐためのラケットプレスには3~5本一緒に装着できる珍しいタイプのももある  | 島村安彦                  |
|            | ウイニングショット (フタバヤラケット)                            | 1952           | 宮城黎子         | 全日本選手権で女子単・複・混合の3種目合計30のタイトルを取った当委員会発起人の宮城黎子が、全日本選手権で初優勝したときの記念すべきラケット   | 宮城 淳                  |
|            | アンティーク木製ラケット                                    | 1930           |              | ティック、Fujisaki、ライト&ディートソン、養老商会、スポルディングなど、国産・外国製のウッドラケット多数   | 中川英明                  |
| カップ<br>メダル | 第7回オリンピック<br>アントワープ大会<br>男子シングルス<br>銀メダル (レプリカ) | 1920<br>(2013) | 熊谷一彌         | アントワープ五輪(1920年)で熊谷一彌が獲得した日本人初のオリンピックメダル(銀メダル)のレプリカ。当時のメダルには首に付けるためのリボンも、リボンを通すための具材もなかった                                 | テニスミュージアム基金<br>で作製    |
|            | ニューヨークカップ<br>(レプリカ)                             | 1922<br>(2015) |              | 1920年の日本のデ杯チャレンジラウンド進出を記念して、ニューヨークの日本倶楽部有志から日本庭球協会に贈られたカップ。1922年の第1回全日本庭球選手権から男子シングルス優勝杯として使われたが、1945年に戦災で焼失             | テニスミュージアム基金<br>で作製    |
|            | 関東選手権優勝カップ                                      | 1926           | 朝吹磯子         | 国内初のミセスプレーヤー朝吹磯子が獲得した優勝カップ   | 堀田和子                  |
|            | 全米選手権<br>男子ダブルス優勝杯                              | 1955           | 宮城 淳<br>加茂公成 | 日本人ベア初の四大大会優勝カップで、会場はデ杯発祥の地として知られるロングウッドクリケットクラブ(ボストン)。現在のUSオープン会場であるUSTAナショナルテニスセンター(ニューヨーク)には歴代優勝者として2人の名前が刻まれたプレートがある | 宮城 淳<br>加茂公成          |
|            | DAVIS CUP<br>(レプリカ)                             | 1989           |              | デ杯優勝杯レプリカ。1989年に西ドイツがデ杯優勝(2年連続)を記念して作成した記念品。スウェーデンとの決勝戦に招待された渡辺功、坂井利郎両氏が記念に贈呈されたもの                                       | 渡辺 功                  |
|            | ITF AWARD FOR SERVICES TO THE GAME              | 2001           | 宮城黎子         | ITF(国際テニス連盟)より、国際テニス功労者賞として贈られたブロンズ像。フェデレーションカップ監督、日本女子テニス連盟会長を歴任し、多くの国際大会招致への実績を評価されたもの                                 | 宮城 淳                  |
| ウェア<br>ボール | デ杯選手着用ブレザー (サイン入り)                              | 1959           | 宮城 淳         | デ杯東洋ゾーン1回戦(対セイロン)と準決勝(対インド)を田園コロシウムで戦ったときの、日本チーム公式ブレザー。準決勝では宿敵インドに2-3で惜敗し決勝進出を逃した  | 宮城 淳                  |
|            | 優勝者サイン入り<br>ジャパンオープンスタッフウェア                     | 2005           | 鈴木貴男<br>岩淵 聡 | 男子複で日本人初優勝を果たした鈴木・岩淵が、大会スタッフウェアにサインをしてくれたもの  | 鈴木貴男<br>岩淵 聡          |
|            | サインボール  | 1930~          |              | 熊谷一彌、福田雅之助、原田武一、佐藤次郎、布井良助、山岸二郎、藤倉二郎、木下順蔵、鶴原謙造、石黒修など日本テニス界レジェンドのサイン入りテニスボール多数   | 戸堂博之<br>大石禎子<br>黒川蔵ほか |

2002年にテニス資料館準備室が発足して以来、約18年の歳月をかけて、日本テニスの歴史を後世に残す貴重な資料の数々が集まりました。収集活動にご協力、ご寄贈いただいた多くの方々にお礼を申し上げると共に、ここに当委員会所蔵品の一部をご紹介しますことができます。このリストをさらに充実させ、これらの資料を展示・公開するミュージアムの建立を実現するために、引き続き皆様のご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

| 種別              | 品名   | 年代          | 選手  | 記  | 寄贈者等       |
|-----------------|--|-------------|---|--|------------|
| 映像              | チルデン、バインズ、シャープ嬢<br>来日                                    | 1936        | W.T. チルデン<br>J. シャープ<br>E. バインズ<br>岡田早苗   | 金子義晃撮影のDVD。アメリカのプロ選手一行が来日し、完成したばかりの田園読売スタンド（のちの田園コロシアム）などで公開試合を行った様子の記録映像  | 金子義明       |
|                 | 日独庭球対抗競技   | 1937        | G. フォン・クラム<br>H. ヘンケル<br>H. クラインシュロット<br>M. L. ホルン<br>柏尾、熊谷ほか                         | ドイツのデ杯選手らが来日し、東京（大阪、名古屋でも開催）で対抗戦を行ったときの記録映像。一行は全日本選手権にも出場し、単複混合全種目に優勝している  |            |
|                 | 1933年ウィンブルドン   | 1933        | 佐藤次郎<br>布井良助  | 青木岩雄在英時代の16mmフィルム。佐藤次郎、布井良助の男子複決勝場面も収録された貴重な映像   | 青木花子       |
| 写真<br>アルバム      | ウィンブルドン女子ダブルス優勝<br>表彰式                                   | 1975        | 沢松和子  | 日本人女子初のウィンブルドン優勝を果たしたときの記念すべき写真。後に国際テニス連盟副会長となった川廷榮一の撮影  | 川廷家        |
|                 | 1926 Davis Cup Souvernir<br>Album                        | 1926        | 原田武一、清水<br>善造、鳥羽貞三、<br>俵積雄  | 原田、清水、鳥羽、俵の4選手で、アメリカンゾーンに初優勝し、インターゾーン決勝に進出（フランスに2-3で惜敗し準優勝）したときの公式記念アルバム。米国テニス協会より記念品として日本テニス協会に贈られたもの                               | JTA        |
|                 | 第6回極東選手権競技大会<br>記念写真帳                                    | 1923        | 原田武一、鳥羽<br>貞三、羽田武内、<br>田村富美子、梶<br>川久子、戸田定<br>代、金田咲子                                   | 現在のアジア競技大会の前身。日本、フィリピン、中華民国が主な参加国で、1913～1934年まで10回開催。第6回大会は大阪で開催され、記念アルバムが作られた。女子庭球はオープン種目として開催され単で金田咲子、複で田村・梶川組が優勝                  | 牛場暁夫       |
|                 | アルバム/<br>スクラップブック  | 1920-<br>70 | 原田武一、福田雅之助、田村富美子、布井良助、山岸二郎、吉村義郎、村山長一、朝吹磯子、安宅登美子、小林富美子、宮城黎子、宮城淳はじめ多数の選手のアルバムを本人、遺族から寄贈 |  |            |
| 雑誌・書籍ほか         | 規（この一球）  | 1965        | 福田雅之助   | 毎日新聞社大泉学園総合運動場に掲示されていた横長の書。「この一球は絶対無二の一球なり」の名言   | 中村義久       |
|                 | 庭球百年   | 1966        | 福田雅之助   | 日本テニス発展の様子や記録をまとめた日本テニス史。明治初期の創生時代からの日本テニス界のできごとを丹念にまとめあげた600ページを超える書籍。時事通信社発行   | 大石禎子<br>ほか |
|                 | モダンテニス   | 1970-<br>80 |   | 宮城黎子が「日本のテニス文化向上のため」に刊行した本格的テニス専門誌。美しい写真とレイアウトで、世界のテニス最新情報と正しい技術を伝えた   | 潮江信彦       |
|                 | ローンテニス/テニスファン/<br>WORLD TENNIS/テニスゼミナ<br>ール/月刊テニス/日本庭球ほか | 1925～       |   | 日本テニスの黎明期に刊行されたテニス雑誌   | 宮城黎子<br>ほか |
| 大会ポスター<br>プログラム | 第1回全日本選手権大会の番組表  | 1922        |   | 東京帝国大学（現東京大学）で開催された第1回大会のドロー。ちなみに優勝者は福田雅之助、準優勝が太田芳郎  | JTA        |
|                 | デ杯ポスター（日本対フィリピン）   | 1955        | 原田武一（監督）<br>加茂公成<br>宮城 淳  | 同年に東洋ゾーンが開設され、日本で初めて開催されたデ杯のポスター。加茂と宮城が初日の単を逆転勝ちし、2日目の複に惜敗。最終日に加茂が単で勝利を決めた   | 金田昭彦       |
|                 | 四大大会<br>プログラム  | 1966～       |   | JTA関係者のほか一般テニスファンから寄贈されたグランドスラムの大会プログラム多数。いちばん古いものは1966年のウィンブルドンで、男子単はM・サンタナ（スペイン）、女子単はB・J・キング（米）が優勝。デイリープログラムで毎日表紙のプレーヤーや色が変わる美しい装丁 | 宮城黎子<br>ほか |

# デビスカップ& フェドカップレポート

# 吉報は届かず

共同通信編集委員  
小沢 剛



2020年は東京五輪イヤーのはずだった。新型コロナウイルスの感染症拡大を受けて1年延期されたが、年頭の団体戦は暗い報告から始まる。日本は新たなフォーマットに変わって間もない男女のデビスカップ（デ杯）、フェドカップ（フェド杯）の予選とともに惨敗を喫した。

3月のデ杯は完敗だった。エクアドルを迎えて兵庫県三木市のブルボンビーンズドームで開催。この感染症のため無観客試合となり、確かにホームアドバンテージは薄れた。それにしても、ツアーより下のチャレンジャーが主戦場のエクアドル選手に3戦全敗…。

初日のシングルスで添田豪がエミリオ・ゴメスに5-7、6-7。世界90位の内山靖崇が同276位のロベルト・キロスに6-7、6-2、6-7。ダブルスは内山・マクラクラン勉組が6-7、3-6。

3試合とも第1セットの競り合いを失って劣勢に追い込まれる同じ展開。経験豊富な添田、今回の対戦ではエース格になった内山が競り負けた理由は何か。よく指摘されるのは過度のプレッシャーだが、国を背負った闘いで格下につけ込まれない力とメンタリティーは、やはり備えてほしい。デ杯で闘うなら、選手自らが克服すべき課題だろう。

今回錦織圭は同行したが、肘などの回復具合が万全ではなく、控えに回ってコートサイドの応援に徹した。錦織に代わる大黒柱と期待された西岡良仁は、今回の感染症で米国が日本の入国制限を打ち出す危険性があり、そうなればデ杯直後の米インディアンウェルズの大会に出場できなくなることを懸念。チーム首脳と相談の上、デ杯不参加を決めた。

フェド杯には大坂なおみが参加、2月に敵地でスペインと対



格下のエクアドルに惨敗を喫してしまったデ杯日本代表

佐藤ひろし/ tennis.jp

戦した。大坂は夏に行われるはずだった東京五輪参加の条件を満たす3度目のフェド杯となった。

だが開幕戦では世界78位のサラ・ソリベストルモに0-6、3-6と敗れた。第2試合で土居美咲、翌日の第1試合では大坂の精神状態を考慮して奈良くるみを代替起用したが敗れた。日本はダブルスの青山修子・柴原瑛菜組が勝ただけで対戦を終えた。

結局、日本は男女ともエース選手をノミネートしていたが、不測の事態もあって決勝大会進出を逃した。団体戦を戦う上では2番

手、3番手プレイヤーの底上げが急務で、このレベルが充実することがエースの負担軽減につながる。バブリンカの成長で悲願のデ杯制覇を成し遂げたスイスが好例である。



期待された大坂なおみもフェド杯で惨敗

佐藤ひろし/ tennis.jp

## 2019年度「特定寄附金テニスミュージアム」会計報告

2019年4月1日～2020年3月31日

|             |             |
|-------------|-------------|
| 2019年度寄附金額  | 8,674,973円  |
| 2019年度末基金残高 | 35,685,987円 |

## 2019年度テニスミュージアム委員会活動報告

|                       |            |
|-----------------------|------------|
| 委員会活動費(JTA予算+寄附金より支出) | 6,553,190円 |
|-----------------------|------------|

### ■主な活動

- ・ジャパンオープン会場内歴史展示事業
- ・史資料の収集、整備、データベース化
- ・メディア、メーカー、大学、研究者等からの問合せ対応
- ・東京港埠頭(株)有明コロシアム、早稲田スポーツミュージアム訪問
- ・ニューズレター発行、JTAHPテニスミュージアム更新
- ・委員会開催

### 〈掲示板〉

(公財)日本テニス協会特定寄附金「テニスミュージアム設立に関わる寄附」へのご寄附のお願い

〔ご寄附の方法〕

①ネット決済の場合: JTAホームページ (<http://www.jta-tennis.or.jp/>) の「寄附」コーナーより、「寄附の方法」の [インターネットからのお申込みはこちら](https://fundexapp.jp/jta-tennis/entry.php) ボタンをクリックしてお手続きください (<https://fundexapp.jp/jta-tennis/entry.php>) 。

②振込の場合: 同封の振込用紙をご利用いただくか、日本テニス協会 (Tel.03-6812-9271) まで振込用紙をご請求下さい。郵便局、ゆうちょ銀行、三菱UFJ銀行からは振込手数料が無料です。

〔頒布物のご案内〕

デ杯「甦る田園コロシアムの熱戦」DVD、フェド杯「日本女子テニス栄光への道のり〜フェデレーションカップの時代〜」DVD、「全日本テニス選手権90年の軌跡」DVDをご希望の方は、下記ミュージアム委員会までお問い合わせ下さい。テニス絵葉書(3種類)はJTAホームページの「JTA STORE出版物頒布」もしくは「情報」コーナーの「出版物」よりお求めいただけます。

〔資料・情報ご提供のお願い〕

テニス史資料の情報、住所・姓名の変更などはJTAテニスミュージアム委員会までメールにてお知らせください。

Eメールアドレス: [museum@jta-tennis.or.jp](mailto:museum@jta-tennis.or.jp)

## ■テニスミュージアム委員会

委員長: 吉井 栄 副委員長: 中川智文

常任委員: 小田晶子、武内 勝、小林やよい、西澤太郎、清水伸一、福池 泉、金森 悟

委員: 後藤光将、越智和夫、小沢 剛、塚越 亘、宮城 淳、我孫子和夫、渡邊康二